

黎明紙第8号

明主様の御救いについて

人間と病氣（二）

先々号（第六号）では、陽川博士が言つて居られましたことを引用させていただき、私共にとつて最も根本的な”生命”の問題を解決するにあたつてよこたわるいくつかの問題点を考えさせていただきました。

過去の長い歴史の間には、多くのすぐれた人々の努力によつて、未知なものに対するたえざる探求が続けられ、一つ一つその中にある真理が明らかにされてまいりました。その結果、現在のような素晴らしい文化の発達がなされ、私共はそこから多くの恩恵をうけてまいりました。

今までの学問・科学では、色々な事実をもとに、その一つ一つを理詰めに考え（教29・63）、それらの積み重ねによつて、かなりの時間をかけ、真理を明らかにしてまいりました。私共人間にとつて、少なく共現在までは、これが最善の方法であり、この方法によつて昔からの所謂非科学的な考え方によつて導き出された数多くの誤った考え方・結論が正され、多くの真理・特に物質面に於いての真理の解明がなされてきたわけであります。しかし、一方、人間の智慧によつて、ものの本当の真相を見通すことが、非常に困難であることも事実であります。特に、”人面生命の問題”、”病気の問題”となりますが、湯川博士が指摘されて居りますように、今までの單なる物質をあつかつてゐる時にはそれでよかつたことが、

もはや許されない深刻な問題となつてあらわれてくるわけであります。

原子爆弾の発明によつて科学者のあり方に多くの反省がなされましたが、それ以上の本質的な問題に私共は直面していると申しても過言ではないと思います。

今までの研究・実験では、もし誤りが分ればそれを改めて、より正しい方向へ、一歩一歩近づいていけばよかつたわけであります。しかし、『生命』に関する問題の場合

は、もはや誤りや失敗がほとんど許されない場合があるどころか、間違いによつては人間を破滅させるおそれさえ生じてくるのであります。それも、始め正しいと考えられていた考え方・方法或は結論がある期間を経たのちに誤りで

あると分つてくることがあるところに深刻なしかも根本的な問題がひそんでいるわけあります。

そこに、湯川博士も言つて居られますように、人間には中々難しいことではあります、出来るだけ先を見通す智慧、私共の今後進むべき正しい方向を見通す智慧、宗教的に言えばその奥にある神様の御心を覺らせて頂ける知慧をいたぐくことが大切な問題になつてくると思います。明主様より私共は次のように御垂示をいただいて居ります。

『世の中で一口に智慧というが智慧にも種々あり、浅い深いもある（中略）一時的でなく永遠の栄を望むとすれば、深い智慧が働くなくては駄目である。そうして深い智慧程誠の強さから湧くのであるから、どうしても正しい信仰人でなくてはならないという結論になる。』（栄10）

『それから（信仰の）向上という事は、一番の事は智慧正覚です。分ると言つても間違つた分り方ではいけません。その標準は御神書です。御神書に書いてある事が大体。なるほど”と思えれば、それは智慧正覚が大分上がつてるのです。

”どうも分らない”というのもあるし、その時はなるほどと思つても、家に帰れば忘れるというのもあります。いろんな事がフツと分るのは智慧正覚が向上しているのです。（中略）だから以前は五つ分つたが、この頃は六つ分る、七つ分るというのなら智慧正覚が向上しているのです』（垂22・～23）『神の啓示』によつて説かれた御神書によつ

て、私共は始めて正しい智慧正覚を磨かせていただけるわけで、この点に関しましては、次回に今少し考えさせていただきたいと思います。